

ヴォルプスヴェーデ芸術家村 訪問記

－ 白樺の家 バルケンホフー

江崎麗

9月5日、この日はブレーメン近郊にあるヴォルプスヴェーデという場所にある芸術家村を訪れた。

天気は曇りで気温もあまり上がらなかったが、外を歩くにはちょうど良い環境だった。ヴォルプスヴェーデまでは、ブレーメンからバスで1時間弱ほどであった。私たちは10時前に村に入り、5時半ごろまで美術館訪問を中心に行動した



村にある並木道の様子



しばらく道を歩いたところには、広大なトウモロコシ畑が広がっていた。

この芸術家村には美術館がいくつかあり、この村にゆかりのある芸術家たちの作品が時代を問わず、数多く展示されている。

中には、かつて芸術家の住居であった建物をそのまま美術館として開放しているところもあるのだが、特に私が興味を抱いたのが、かつて画家ハインリヒ・フォーゲラーの家であった「バルケンホフ (Barkenhoff)」である。



大通りにあるバルケンホフの出入り口



バルケンホフ正面 白樺の家と玄関

ハインリヒ・フォーゲラーは、1872年ブレーメン生まれの画家である。彼はフリッツ・マッケンゼン、オットー・モーダーゾーンといった表現主義を代表する画家たちと同様にこのヴォルプスヴェーデの魅力に惹かれ、1895年に移り住むことになる。

私は今回のヴォルプスヴェーデ訪問で初めて彼の作品を知るようになったのだが、自身の中では1番印象に残った画家であった。ここからは、バルケンホフでの鑑賞を通して発見したこと・素直に感じたことを、簡単ではあるが自分なりにまとめたいと思う。

バルケンホフは、舗装された通りから外れ、細い山道に入ってしばらく下っていったところに存在した。

下った先には沼のようなものもあり、先へ進むと大きな白樺の家が見えてくる。家の前には緑豊かな広い庭があり、かつてはきれいに整えられていた様子がかげえた。

実際にこの家と庭を描いたフォーゲラーの作品も数点残されている。(写真参考)



玄関前の様子を描いたフォーゲラーの作品



細い山道を下ったところにある沼

バルケンホフ内部では、フォーゲラーの作品数点の他、彼が作品制作の際に使用していたとされる刷り機なども展示されていた。
(ドイツの場合写真撮影が許可されていることが多いが、ここでは禁止されていたため撮影することはできなかった。)

ここではフォーゲラー以外に、現代の芸術家たちの独創的な作品がところどころに配置されていて、そちらも楽しめるような作りであった。フォーゲラーとは全く異なるジャンルであるが、むしろ違うタイプのものを置くことで面白味が増すし、芸術形態の比較ができるかもしれない。

入り口の受付カウンターの奥にはミュージアムショップがあり、そこでヴォルプスヴェー

デ関連のポストカードや画集を買うことができるようになっていた。

私は現在学芸員過程を受講しているため、今回の研究旅行を受けて、日本とドイツにおける博物館・美術館での展示方法の違いについても興味を持った。先ほども述べたように、バルケンホフは住居を利用した美術館である。通常的美術館よりも規模は小さめで、一通り見てまわるのにそれほど時間はかからないだろう。

日本では、展示品はケースに入れられているか、周りがロープで囲まれていて、鑑賞者が近づきすぎないようにしている場合が多いと思うのだが、ドイツでは基本的に仕切りが少なく、より近くで作品を鑑賞できるようになっていた。これはバルケンホフでも同様であった。

さらにここでは、より住居感を出すために寝室などはそのままの状態再現され、同室にフォーゲラーの作品を展示するなどの工夫が見られた。この部屋は小さく素朴な雰囲気を持っていた。

ヴォルプスヴェーデでは、各美術館でもフォーゲラーの作品を見ることができる。その中でも、バルケンホフではより様々な時代・画法のものが展示されていた。彼の作品には油彩の他、エッチング、線画などがある。同じ画家が描いたとは思えないほど作品ごとに雰囲気が違うので、それぞれの特徴を観察するのは非常に興味深かった。

鑑賞する中でやはり印象深かったのが、自然を描いた作品であった。ヴォルプスヴェーデをモチーフに描かれたような、自然の中に佇む女性の絵などは各美術館でもいくつか見られたが、これらの作品は人物が風景によってより引き立てられ、華やかに見えると同時に、まさにどこか哀愁を感じさせるようであった。壁面パネルに描かれ、水の精をモチーフとした巨大な作品は、その大きさもさることながら、はっきりとした輪郭線や、原色に近い色彩の鮮やかさが印象的で、今回鑑賞したフォーゲラーの作品の中でも異質な作品だった。ジャングルのように草木が茂った周囲の景色は、ヴォルプスヴェーデのそれとは違っているものの、自然豊かなこの土地からも創作意欲を得て描いたのではないかと思わせるような作品であった。

私にとって1番印象深かった作品は、先ほど紹介した寢室に展示されていたもので、青い翼を持つ女性(天使?)と、彼女を見上げる人々の絵である。

(ドイツ語作品 Verkündigung)

背景には海があるように見え、夜空の中心に流れ星が描かれている。

私はこの作品の青色の色彩に強い印象を受けた。本物を見る前にポストカードで見たものとは、青の色合いがかなり違っていたからである。ここでは、本やテレビで見るのと生で見るのとでは全く違うということを自分の目で強く実感した。宗教画の一種なのか、それとも自然の美しさ・神秘性を表したものなのか。どちらともとれるような不思議な作品であったため、これは是非今後詳しく調べてみたいと思った。



住居を美術館にした建物 Haus In Schluh の前にあった看板。フォーゲラーの作品が使われている。

バルケンホフは、外観も内部も非常に魅力的な建物であった。そして数多くのフォーゲラー作品と出会えたことは、今後考察を深めるべき課題の発見につながったと考えている。

ヴォルプスヴェーデは日本人にとってあまり馴染みのない場所だと思うが、だからこそ今回の訪問は非常に貴重で有意義な経験であったと思う。

今後ドイツへ行く機会が得られたなら、是非とも再び訪問できることを望みたい。